



南高 Forever

File007 01.2021

青木千佳氏

「南幌学」サポーター
南幌町
地域おこし協力隊員

まずは健康を大切にし、楽しもう。
楽しむことで人は集まってくる。
いい環境はそうやってできる。

令和三年五月に実施予定の本校最後の見学旅行では、姉妹町 熊本県多良木町へ訪問し、本町の良さをプレゼンテーションすることとされています。現在、それに向けた事前学習「南幌学」を実施していますが、町のことをよく知る地域おこし協力隊員の青木千佳さんにサポーターとして協力いただいています。

第七回のゲストは、青木千佳さんにお願いしました。青木さんは平成三〇年一〇月に南幌町初の地域おこし協力隊として埼玉県から着任されました。

東京で働き、いったん京都の陶芸学校に通われ、前職に復活して月一回は京都の陶芸学校にも通うという多忙な生活を送っておられたなか、「もっと大きな作品を作りたい」という意欲が湧き上がったようです。知

人からそのような環境を作

るのであれば地域おこし協力隊に応募してみてもいいかと勧められ、全国各地の求人を見た中で、美しい夕陽の写真に心奪われた青木さんは、北海道には祖母が暮らしておられたご縁もあり、空港からのアクセスもよさそうな南幌町を希望されたとのことでした。

黄砂の影響で花粉症を発症しておられたそうで、薬をのまなければならぬものの、のみ続けているうちに薬も効かなくなっていくことに対する不安、年々厳しくなる夏の暑さとそれに伴う冷房との寒暖差からくるだるさで思うように活動できない時間のもったいなさを感じていたのです。それから解放された南幌町の生活は快適だと語られます。

着任前は「雪がすごい」と聞かされていたようですが、想像していたほどではなかったそうで、室内の温

度はかえって北海道の住宅の方が高いし、南幌町は雪が降っても除雪などの対応がしっかりしているので安心しているとのことでした。

「南幌学」で南幌町のいいところを探求していくため、南幌町の良さを知っておられる地域おこし協力隊の方にご協力いただけませんかとお打診したところ、快くお引き受けいただき、さまざまな情報を提供していただいています。

ご自身が学生の頃は、どうして勉強しなければならぬのか、何の役に立つのかと疑問に感じておられたそうです。勤務先が突然長期休業となり、友人と休暇が合わずヨーロッパに一人旅に出たとき、ちょっとしたアクシデントを解決するために、頭をフル回転させつつ何とか言葉が通じた瞬間、勉強したことが役に立ったと実感したそうです。



「南幌学」について、生徒の皆さんは今やっていることが何に役に立つか想像がつかないかもしれないけれど、いずれ何らかの形でプレゼンテーションする機会を訪れる。その時に内容の探し方、話し方、もらったヒントをどう発展させるかなどを練習しておくというのは大事なことだと思いますとのことでした。自分にとってには新鮮な感じがしており、自分が学生の

時に受けたかったと言っていたいただきました。

青木さんの地域おこし協力隊としての任期は、令和三年秋に終わるそうです。

いよいよ当初の念願だった作品づくりに挑戦していきたいと考えておられるそうです。南幌生活も三年目となった今、町外に出かけ、さらば街道で町内に戻ってくるのと、ホッとするそうです。大きな作品を作るためにはある程度の広さが必要なので、南幌町に継続して住むことができれば、窯を設けて、何か南幌町らしいエッセンスを生かした大きな作品づくりに挑戦したいとのことでした。

実は、南幌町の面接を受けた日は、胆振東部地震前日の台風の日だったそうです。陶芸では木材を大量に使うので、あちらこちらにあつた倒木が気になっておられたそうで、現在はいた

だいた白樺を燃やし、釉薬を作る準備を進めているそうです。

〈南高生への伝言〉

まずは健康が第一。健康だと、どこでも行けるし、何でもできる。そのうえでとにかく楽しんでみよう。楽しいことをしている人には、楽しい人が集まってくる。環境が人を作ると言うけれど、そうやって自分でいい環境を作っていくことが豊かに暮らしていく秘訣かもしれない。がんばってください！

様々な街で暮らし、さまざまな地に旅し、活動的な青木さんですが、根底にはそれぞれの風土・歴史・文化・人々の多様性を受け止める、楽しんでおられる姿勢が輝いていました。いずれステキな大作ができることを期待しています。